

金沢大学先端観光科学研究所が事務局を務める、北陸未来共創フォーラム観光分科会では、この度、北陸三県（石川県・富山県・福井県）が実施してきた観光アンケート調査約 7 万件を統合し、横断的な分析やアプリケーション開発に活用できるデータ基盤を整備しました。

＜取り組みの背景＞

北陸地域では、各県が独自に観光動態や満足度調査を行ってきましたが、調査設計やデータ形式が異なるため、地域をまたいだ分析や広域観光政策への活用が難しい状況にありました。北陸未来共創フォーラム観光分科会では、今年度から観光DX推進WGを設置し、地域間のデータ連携と利活用を進めることで、科学的根拠に基づく観光DX（デジタルトランスフォーメーション）を実現することを目的に、三県のデータ統合プロジェクトを推進してきました。

＜取り組みの概要＞

北陸三県が保有する観光アンケートデータを共通フォーマットに変換し、アンケートの主要項目を標準化することで、地域横断的な比較分析を可能としました。データ変換・整形を自動化するプログラムは金沢大学先端観光科学研究所のスタッフを中心としたチームによって開発され、オープンソースとしてGitHub上で一般公開されています。

GitHub 組織：hokuriku-inbound-kanko

URL：<https://github.com/orgs/hokuriku-inbound-kanko/repositories>

さらに、当該データを基に、一般利用者・研究者・自治体による観光振興等への活用の推進を図るため、可視化用Webアプリケーションも整備しました。本アプリケーションは、石川県データアナリストの羽生田文登氏が主開発を担い、北陸三県の観光連盟等のみなさまとともに、観光DX推進WGの活動の一環として開発したものです。

本データ基盤の整備により、「観光データ分析の高度化」「サービス・アプリ開発の促進」「地域連携の強化」「教育・研究利用の拡大」が期待されます。

＜今後の展開＞

今後も、データ更新の自動化や多言語対応の可視化システム、AIによる需要予測モデルの開発などを進め、北陸初の観光データ利活用モデルを全国・海外に発信していく予定で、インバウンドを含めた観光の底上げを目指し、北陸エリアのさらなる観光振興のための取り組みを強化していきます。

＜参考情報＞

- ・対象データ：石川・富山・福井の観光アンケート（来訪目的、満足度、消費額など）
- ・回答数：約 72,000 件
- ・公開形式：CSV 形式／オープンソースプログラム（MIT ライセンス）
- ・想定活用：観光統計分析、アプリ・ダッシュボード開発、AI モデル学習、地域 DX 推進